

(第3種郵便物認可) (毎週水曜日発行)

ミャンマー、ベトナム
タイ、インドネシア、フィ
リピンに続き、7回目とな
る「日本・インド環境
ウィーク」は1月12～13
日、インドの首都ニューデ
リーとオンラインのハ
イブリッド形式で開催。管
理会式では環境インフ
ラ・技術を通じた、印
度における強靭な脱炭素
社会の構築と題した基
調演説、パネルディスカッ
ション等が行われ、70
名以上（現地500名
以上）が参加した。
両日にわたりて海洋フ
ラスチックごみ・廢棄物
生活排水処理施設の総合

（Chubbarath氏が、ピ
アで「インド国における
IoT資源を活用した排
水処理の維持管理ビジネ
スモデル」について講
演した）
（第3回「日本・インド環
境ウィーク」の開催地
である、現地の環境課
題から環境ウィークと、同
社のインドビジネスに対する
スタンスなどを聞いた）

企業訪問 (38)

日吉

環境省が環境分野のビジネスチャンスを効率的かつ効果的に創出するため、2017年度以来、アジアの各国環境担当省とも連携して主催している「環境ウィーク」。今年はG20議長国のインド環境・森林・気候変動省とともに「日本・インド環境ウィーク」が開催され、新たなビジネスチャンスや市場を求めて、日印24の環境ソリューション企業が参加した。廃棄物、リサイクル、水環境保全、クリーンエネルギー、気候変動などに対する専用機器メーカーやエンジニアリング企業が名を連ねる中、サービス業分野で国内唯一「アース展示」ビジネススピッチ、セミナーなど至テログラムに参加したが、社会貢献事業機関（インド）縁があるトータルサポートの日吉だ。今回は同社を訪ね、現地に出向いた研究開発企画部海外企画室の黒川尚樹室長に、「当時の様子とともに」に参加者視点からの環境ウィークと、同社のインドビジネスに対するスタンスなどを聞いた。



黒川尚樹

法もある。

「今やイークのテーマは

脱炭素と地球変動。W.H.

O基準値の30倍を超える

大気汚染や日本の一級河

川基準値の100倍以上

の水質汚濁の川があるな

ど、身近に大きな環境課

題を抱えるインドにどう

では実感が湧きにくい主

題かとも思えたが、脱炭

素は一部の先進国だけが

取り組むものではなく地

オキシンに対しては排出

量の推計や排出削減を行

るエンナ

イが飛行機

で3時間の

遠距離とい

うことでもあ

り、ビジネ

スチャンス

Xでは、1検体当たりに

消費するCO₂量が從来

法より92%削減（32・5

kgから2・6kgまで）

が、年間3000検体

のダイオキシン類分析を

は少なかつ

り、現地

では換算で年間

92%のCO₂削減になる。

「メーカーならば、本体

の日本の環

境技術に対

して、

機器や使用時の映像など

具体的な展示ができますが、

サービスの場合はボス

ターやチラシなどの紙ペー

法じもの。

「今やイークのテーマは

脱炭素と地球変動。W.H.

O基準値の30倍を超える

大気汚染や日本の一級河

川基準値の100倍以上

の水質汚濁の川があるな

ど、身近に大きな環境課

題を抱えるインドにどう

では実感が湧きにくい主

題かとも思えたが、脱炭

素は一部の先進国だけが

取り組むものではなく地

域じもの。

「今やイークのテーマは

脱炭素と地球変動。W.H.

O基準値の30倍を超える

大気汚染や日本の一級河

川基準値の100倍以上

の水質汚濁の川があるな

ど、身近に大きな環境課

題を抱えるインドにどう

では実感が湧きにくい主

題かとも思えたが、脱炭

素は一部の先進国だけが

取り組むものではなく地

域じもの。

「日本・インド環境ウィーク」に参加

ミャンマー、ベトナム
タイ、インドネシア、フィ
リピンに続き、7回目とな
る「日本・インド環境
ウィーク」は1月12～13
日、インドの首都ニューデ
リーとオンラインのハ
イブリッド形式で開催。管
理会式では環境インフ
ラ・技術を通じた、印
度における強靭な脱炭素
社会の構築と題した基
調演説、パネルディスカッ
ション等が行われ、70
名以上（現地500名
以上）が参加した。

（Chubbarath氏が、ピ
アで「インド国における
IoT資源を活用した排
水処理の維持管理ビジネ
スモデル」について講
演した）

（第3回「日本・インド環
境ウィーク」の開催地
である、現地の環境課
題から環境ウィークと、同
社のインドビジネスに対する
スタンスなどを聞いた）

（西村明宏環境相は参加
した）
（黒川尚樹は、「日本で培つ
た技術力を差し込んで、
印度に回観。日吉アース
の環境良化に貢献した
環境技術ニーズが高く、
環境技術ニーズが高
い」と力を込めた）

西村大臣に説明する村田社長
(日吉ブースにて)